

横浜市立港中学校「防災マップ作り授業」(報告)

2013 年(平成 25 年)7 月 17 日(水)

経過

- (1) 港中学からの要請に応じて、防災塾・だるまは 2012 年度(平成 24 年度)から防災教育を支援：
1 月 8 日(火) 研修会(講義とクロスロードゲーム)を通じた教職員との防災意識の共有。
2 月 28 日(木) 第 1 回防災教室(1・2 年生を対象としたビデオ(阪神淡路大震災)・スライド(関東大震災)を使った学習とグループに分かれたワークショップ)
- (2) 2013 年度(平成 25 年度)の展開として、「登下校中の震災遭遇でどのように命を守るか」をテーマに「街あるき」と「防災マップ作り」を実施することとなった。
防災塾・だるまが企画、講師(だるま・森さん)、当日の授業を支援。

《防災マップづくりの目的》

登下校中に被災した場合、どのようにして命を守るか、自分で考え、判断する力を養う。また、判断するための知識や情報を得る。

- ① 地域の状況を知り、情報を得る。
- ② 危険をイメージし、どこへ避難したらよいかなどを考え、判断力を養う。

- (3) 使用する地図(港中学学区全体をカバーし、生徒による街あるき・防災マップづくりに適切なもの)についてもだるまからアドバイス。
- (4) 高松リーダーの呼びかけで、7 月 17 日(水)当日は 13 名のだるまメンバーが参加し、協力。
荏本(塾長)・高松(リーダー)・池田・森・加藤(清)・佐々木・田中(喜)・中島・中村(茂)・小原・山田(美)・浦辺・成松(敬称略)

防災マップづくり授業の概要

各クラスでの視聴風景

◆日時:2013 年 7 月 17 日(水) 4 校時(11:35~12:20 45 分間)

《授業の展開》

- 0~5 分 はじめに(担任)、だるま紹介
5~35 分 講義「街あるき防災マップの作り方」
(講師:だるま 森さん)
35~45 分 各クラスでのまとめ(担任)、
だるまメンバーからのアドバイス等。

◆対象:1~3 年生 計 10 クラス(約 350 名)

◆授業の進め方:

- (1) 講義「街あるき防災マップの作り方」:
 - ・講師:だるま・森さん
 - ・放送室からの一斉放送。
 - ・パワーポイント使用。
- (2) 各クラス(講義終了後の約 10 分間)
 - ・担任からのまとめと夏休み宿題としての説明。
 - ・だるまメンバーからのアドバイス。

◆配布資料:

- ・地図(街あるき用) 講義レジメ(森さん)
- ・「防災授業(マップ作り)について」(港中学)



放送中の講師・森さん

◆マップ作りの目的は

- 震災時にひとりひとりの命を守るため。
- ◆街あるきでは、震災時に危険なところ、防災・減災に役立つところなどさまざまなポイントを見つけて、マーカーで地図に色で示す・・・危険だと思ったところは赤、災害の時に役立つと思ったところは緑・・・
- ◆中には見つけずらいものもある。注意して見つけることも大切。
- ◆気づいたこと・大切だと思ったことはフセン紙にメモして、地図上に貼っておく。
- ◆夏休み明けにみんなのマップ・情報を持寄って、地域のマップをまとめよう!

講義終了後の担任からの説明



- ・横浜は関東大震災で大きな被害を蒙りたくさんの方が亡くなった。また、大震災発生時の被害想定も発表されている。
- ・防災マップづくりは、自分たちの地域の危険・情報を知り、震災時に自分たちの命を守る、大切なもの。真剣に取り組んで下さい。
- ・夏休みが明けにみんなの作ったマップ・情報を持ち寄り、グループでまとめ・発表・・・マップ作りから防災・減災を学ぶ。
- ・街あるきでは、暑さ対策や事故防止に気を付けて！

生徒からもさまざまな意見・質問が・・・

- ・地域の状況をよく見てみたい。
- ・友達と一緒に街あるきをしたい・・・推奨！
- ・インターネットの情報も活用したい。
- ・登下校ルートだけでなく、周囲の地域を調べようと思う。



だるまメンバーからもアドバイス

- ・街あるき・マップ作りの前に、もう一度マップ作りの目的を確認しましょう。
- ・街あるきで気づいたこと・感じたことは大切な情報・・・しっかりメモに。
- ・地域の危険や避難ルートなどをイメージしておくことが、イザという時の判断に役立つ。
- ・みんなでマップ・情報を持ち寄り話し合っ、みんなのマップを作ってください！

終了後の反省会

～だるまメンバーからの意見・報告～

- ・マップ作りの目的を生徒と確認することが大切。
- ・3.11や横浜市の震災被害想定などにも触れることで、生徒の授業への集中度も高まった。
- ・生徒がまとめるマップを横浜市の「わいわい防災マップ」などと対比することも有効。いろいろなことを学べる。

《港中学から》

- ・外部の専門家としてだるまメンバーに入ってもらったことで生徒の関心が高まり、授業のインパクトも上がった。
 - ・わかりやすい講義で、時間配分・進行もスムーズだった。
 - ・マップ作りを今後の防災教育の展開に生かしたい。
- どうつなげていくか、だるまからのアドバイスをお願いします。
・・・・だるまのみなさん、ありがとうございました！



《終わりに・・・高松リーダー》

- ・多くの生徒が関心を持って講義を聞いていた。よい意見・質問もあった。夏休み明けに全員からマップが提出されることを期待。
- ・授業への集中度にはバラツキがあった。今後の取組みへの課題。
- ・だるまメンバーの協力に感謝！